令和３年度第３回庄原市情報教育研修会

■日　時：令和４年２月22日（火）　14：00～16：35
■場　所：各学校　オンライン
■対象者：庄原市内各小・中学校のICT活用推進リーダー22名

目　的

・実践報告を通して，児童生徒の情報活用能力育成に向けた授業改善の視点をもつことができる。
・タブレット端末を実際に活用することを通して，タブレット端末利用の促進に向けた視点をもつことができる。
・各校の実践報告を通して，自校の取組の参考とするとともに，次年度の予定について理解することができる。

実践報告「児童生徒の情報活用能力の育成に向けた授業改善について」

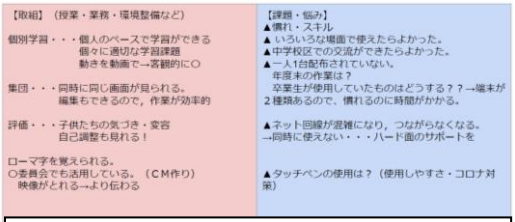
庄原市立西城中学校　教諭　末田　和也

実践報告のプレゼン資料より一部抜粋

【実践報告の概要】
○　学校教育の情報化指導者養成研修を受け，「情報活用能力の指導の必要性」「文房具としてのICT活用」「場面を選んで活用」について自校で実践を行った。学校全体で取り組んだ実践紹介とともに，体育科における授業の実際について映像資料により説明を行った。ICTを効果的に活用することで「教える授業」から「気付かせる授業」に授業改善が図られた。

協議・交流「ICT活用の実際及び今後の予定について」

庄原市教育委員会教育指導課　指導主事　砂走　敏和

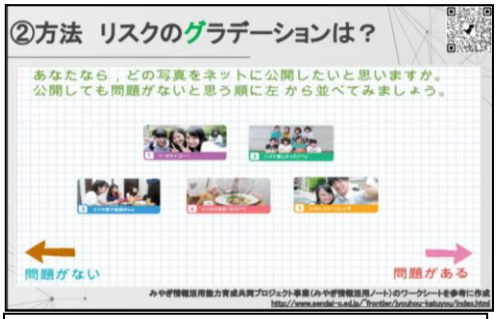


グループ交流での成果と課題をまとめた様子

【協議・交流の概要】
○　各校からICTを活用した授業実践の報告をまとめた「ＩＣＴＢｏｏｋ」の活用方法について説明を行うとともに，グループで実践の紹介と，今年度を振り返り成果と課題について交流した。また，広島県教科用図書販売　安部様より「Ｎｅｔモラル」のアプリケーションの説明をいただいた。

講話・演習「タブレット端末活用を進めていくために大切なこと」

広島県教育委員会義務教育指導課　指導主事　岡下　祥久



「リスクのグラデーション」演習資料より

【講話・演習の概要】
○　本市で作成した「ICTBook」について触れながら県内外の実践を紹介いただいた。ICTの活用が進んでいるイメージは「教師が使わせる」ではなく「児童生徒が使っている」ことが大切である。
○　ICTの活用が進んできた場合，情報モラルについての指導も必要となる。指導の際，大切なことは「一人一人の考えのギャップ」を体験させることである。写真の公開について「問題がある・ない」に分類する演習を行うことで，危険性についての捉えが一人一人違うことを実感させることを体験的に学べた。

【参加者の感想】
・指導するときの意識を変えることが大切だと感じた。「今は使えないから」という考えではなく，「子供たちが将来どう使うか」と考えて指導していく。
・インターネットやSNSを活用するとき，ルールや禁止事項を指導するだけでなく，どのように利用すればいいのかを子供自身が考えていけるように授業づくりを工夫していきたい。
・今後もまずは「やってみる」の考え方で挑戦していきたい。